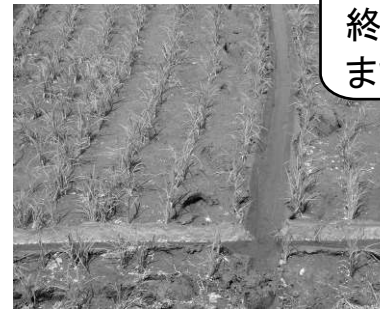


田植後1ヶ月頃で中干し開始！気象変動に強い根づくりを！

1 溝掘りの実施

中干しやその後の間断かん水等、水管理を効率的に行うため、中干しの前に必ず溝掘りを行いましょう。



溝掘りは、
終わって
ますよね！



2 中干しの実施

中干しは無駄な茎数の増加を抑え、根を地中深く張らせるために大切な作業です。適期に適切に中干しを行い、適正な生育量に誘導しましょう。

《中干しの効果》

- ①発根の促進、稲体の健全化
- ②土壌内の有害ガスの除去
- ③過剰分けつの発生抑制
- ④適正な葉色への誘導
- ⑤収穫時に機械作業が可能な地耐力の確保

適正な中干し 中干し未実施



中干しの有無による根量の違い

《中干し開始の時期と方法》

- 田植えの1ヶ月後頃までに遅れず開始しましょう。
(本格的な梅雨に入ると、十分に中干しができないので、実施が遅れないように注意して下さい。)

田植後1ヶ月頃にしっかり田んぼを干さない、根が十分に増えません！

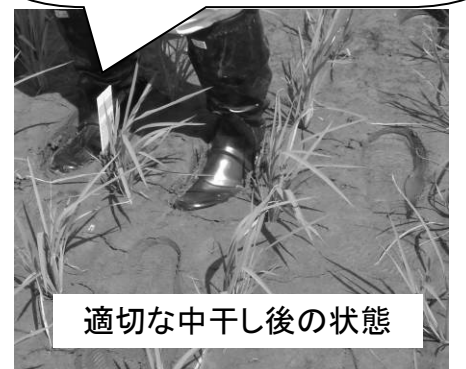
- 土壌条件等に応じて中干しの程度を調整しましょう。



【圃場条件別の「中干し」・「間断かん水」の目安】

圃場条件管理		乾きやすい圃場 (砂質田・黒ボク等)	乾きにくい圃場 (半湿田・粘質田)
中干し	方法	3日間程度で弱めに干す	5～7日間程度で強めに干す
	仕上げ程度	<p>・小さなヒビが入る程度</p>	<p>・足が少し沈む程度</p>
間断かん水	方法	1日湛水→2～3日落水	1日湛水→4～5日落水
		湛水と落水を繰り返し、根に新鮮な水と空気を交互に供給	

中干しの終了は、圃場の中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とします！



適切な中干し後の状態

大きなヒビが入るほど強く干すと、根を傷めたり、急激な葉色低下を招く場合があるので、注意しましょう。

- 中干しは一発仕上げとせず、その後の「間断かん水」と併せて、適正な硬さに仕上げましょう。
- 間断かん水は幼穂形成期頃まで継続し、足跡の深さが3cm程度の硬さになるようにしましょう。

3 後期除草剤の散布

- (1) 雑草の発生状況を確認し、散布が遅れないようにしましょう。
- (2) 除草剤によって対象となる雑草や使用時期、使用量が違うので注意しましょう。
- (3) 散布後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しないで下さい。(ただし、バサグラン粒剤とクリンチャーバスME液剤を除く。)

除草剤名	対象雑草	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	使用上の注意点
テッケン 1キロ粒剤	ノビエ、マツバイ、 ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ 他	1kg	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
バサグラン粒剤	ホタルイ、コナギ ミズガヤツリ他	3～4kg	移植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	・ノビエには効きません。 ・晴天日を選んで散布する。 ・雑草が露出する程度のごく浅水で散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエのみ	1kg	移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫30日前まで)	2回以内	・ノビエ専用剤で残効性がない。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
		1.5kg	移植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)		
ヒエクリーン 1キロ粒剤		1kg	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	・ノビエ専用剤。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態で 散布する。
クリンチャー バスME液剤	ノビエ、ホタルイ、ウリ カワ、ミズガヤツリ、 オモダカ他	1,000ml 希釈水量 70～100ℓ	移植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回	・晴天日を選び落水状態で散布する。 ・雑草の茎葉に付着するよう丁寧に散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。 ・展着剤は加用しない。

4 農薬を散布する場合の注意事項

梅雨以降、雑草が繁茂し病害虫の発生量が多くなる季節です。農薬を散布する際は、下記のことにご注意しましょう。

(1) 防除予定の作物に登録のある農薬を使用しましょう。

- ・栽培中の農作物への使用が認められていること(登録)を確認しましょう。
- ・農薬のラベルに表示された使用方法を守りましょう。



(2) 周辺農作物等への飛散(ドリフト)の低減に心がけましょう。

- ・風の弱い時に風向きに気をつけて散布しましょう。
- ・散布の方向や位置に気をつけて散布しましょう。
- ・周辺に収穫直前の農作物がある場合は特に飛散を少なくするよう心がけましょう。



※農薬を散布する際は、事前に周辺住民に対して十分な周知を行いましょ。

事前に周囲に住んでいる方に連絡を!

(3) 農薬の使用状況をきちんと記録しましょう。

- ・作業が終わったら栽培記録簿とGAPチェックシートに必ず記録しましょう。
- ・農薬等の生産資材を適正に使用していることが確認できるとともに、販売先や消費者の信頼を得るために大切です。

“農薬使用前にもう一度ラベルを確認！”

**6月15日～9月14日は
平成30年度農薬危害防止
運動の期間です！**

農薬の使用前にもういちど
ラベルを確認!

～農薬の安全使用の川柳～
農薬は 施錠保管で 防ぐ誤飲

- ★これから暑い時期を迎えます。農作業の際は、常に水分補給ができるよう水を持ち歩くなど、熱中症対策に努めましょう。
- ★農業機械操作中の事故防止、農薬の適正使用や生産履歴の記帳など、GAP（ギャップ）に取り組み、「安全・安心」な米づくりを進めましょう。